

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第10回 客が来ないのは、ブッシュのせい？

小生、何だかんだと言って、かれこれ30年近く「相談」業務に携わる経験を持つ。時に感動したり、時に怒りまた笑い、あるいは呆れたり、正に人生そのもの。「経営相談」や「税務相談」という看板が、いつの間にか「人生相談」になったりして、はなはだ僭越だが、奇怪な体験をさせていただいている。

ある商店主...

お店にお客が来ない。店の商品が全然売れない、困ったもんだ、という一言から始まったヒヤリングは、当方話す間もなく途切れなくしゃべり続ける商店主。「相談」とは、「いかに相手の言うことを聴き取るかからだ、まず辛抱ありき...」かつて偉大なる大先輩に教えていただいた定石通り、じっと彼の話を聞いていた。株価が低い、景気が悪い、小泉はやめたほうがいい、から始まって、拳句の果てはブッシュが一番悪い。貴重な予約時間、そのほとんどは大評論家を演じて終わってしまった商店主。彼の相談って、一体何だったのか。帰る彼の背に向かい、「お前の店に客が来ないのは、ブッシュのせいだ！」。声なき心の中で言い払った相談員、いけない人かもしれない。

中小企業の経営者と称するおばあちゃん...

担当者から、相続税のご相談と聞いていた。失礼があってはいけないので、最新の改正相続税法、想定問答集等々、重いカバンを携えいそいそと相談室にのりこんだ。長男が専務、そのお嫁さんは経理担当者として勤務している。長男は昔から賢くて、性格もおとなしい方で、しかも実によく働く。だがしかし、嫁は悪い。口答えはするは、仕事はサボる、ついでに顔も悪いし、あれじゃ息子が可哀相、何で離婚しないんだ...もう滅茶苦茶である。何としても、嫁に私の財産を渡したくないが、その方法を教えてほしい。「社長さん、特別な場合を除いて、お嫁さんに相続権はありませんよ...」優しくそう答えてあげたとたん、如何にも満足げに席を立った。

商店街の役員さん...

自分はこれだけ商店街に尽くしてきた。だが、市は何をやってくれたんだ！県も国も、補助金出さず、会議所も同罪だ。皆揃いもそろって、何もやってくれないじゃないか...自分が、どれ程商店街に貢献したか否かは別として、なるほどこれが「くれない族」という種族か、初めて知った。誰も、何もやってくれない、くれないと口癖になってしまった、他人に依存するしかできなくなってしまった悲しき人種、広辞苑にはそんなこと載っていないかも。いやはや、何をかいわんやである。

相談あれこれ、その実ほとんどが真面目な相談であること、明記しておく。